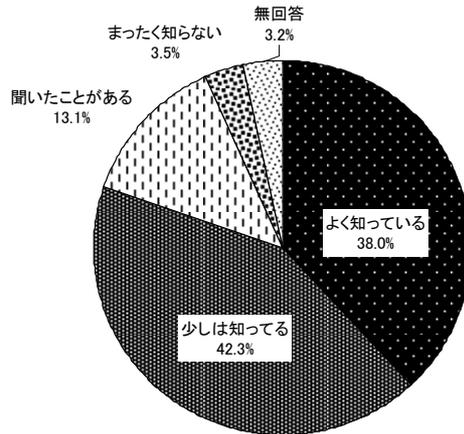


## 6. 同和問題について

### 問 16. 同和問題、部落問題などの認知度

同和問題、部落問題などの認知度は、「少しは知っている」が 42.3%で最も多く、次いで「よく知っている」が 38.0%、「聞いたことがある」が 13.1%などとなっている。

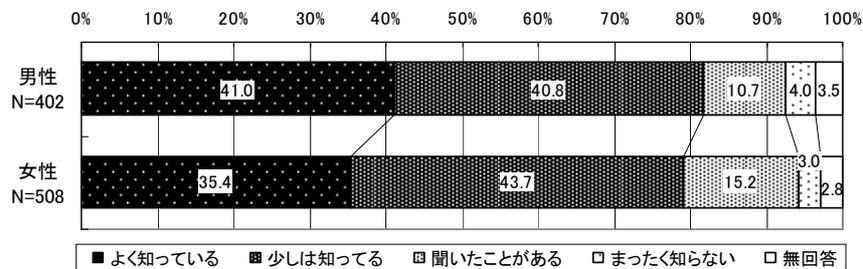
図 16 - 1 同和問題、部落問題などの認知度 (N=918)



#### 【性別】

性別にみると「よく知っている」割合は男性の方がやや高い。

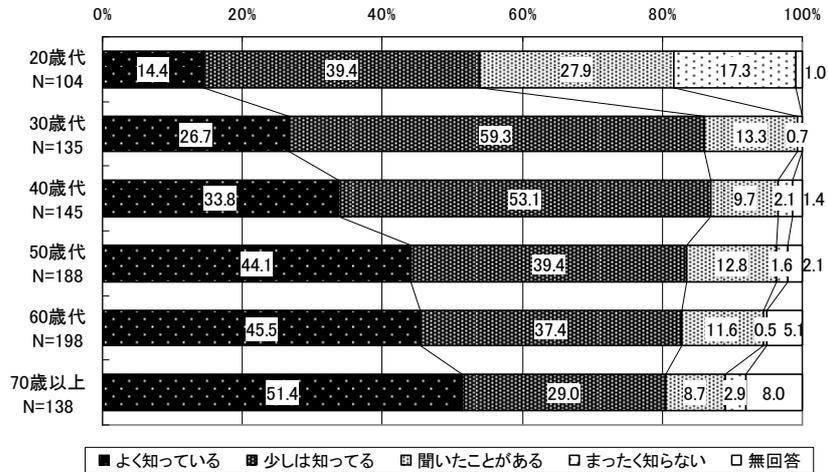
図 16 - 2 同和問題、部落問題などの認知度



#### 【年代別】

年代別にみると、年代が高くなるほど「よく知っている」の割合が高くなっている。「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた割合でみると、20歳代では50%強で、他の世代と比べてかなり低い。

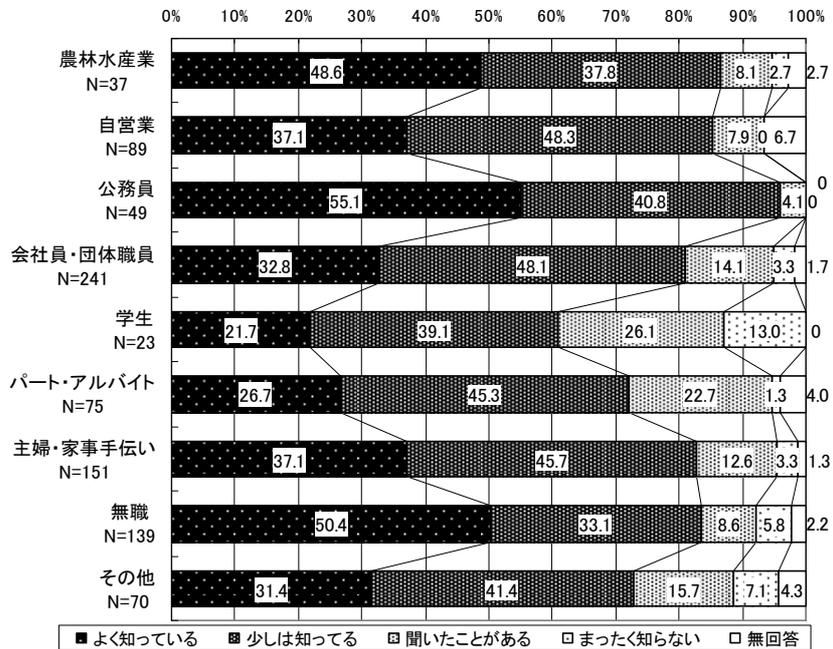
図 16 - 3 同和問題、部落問題などの認知度



【職業別】

職業別にみると、「よく知っている」の割合は、公務員、無職、農林水産業が50%程度で他と比べて高い。「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた割合でみると、公務員、農林水産業、自営業で他と比べて高い。

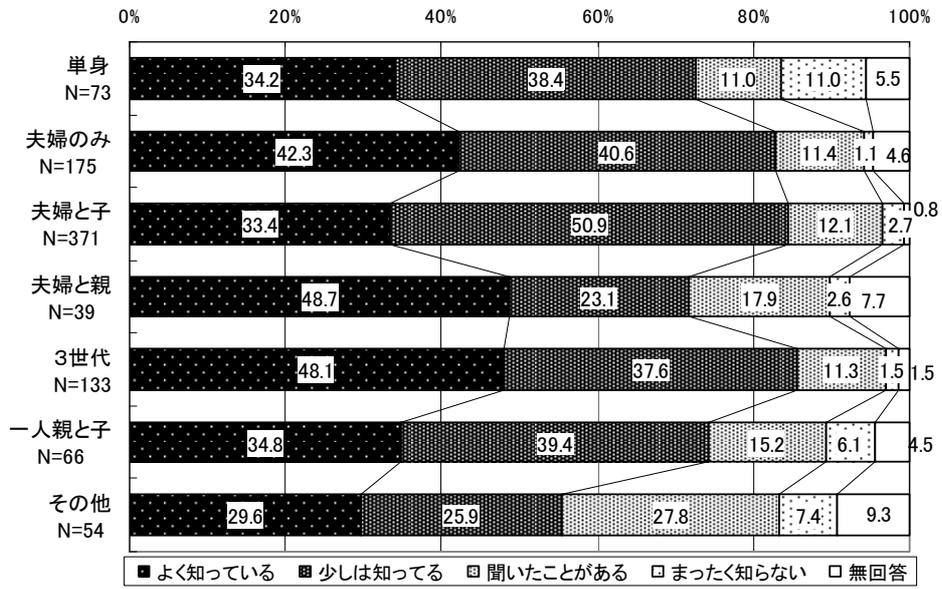
図 16 - 4 同和問題、部落問題などの認知度



【家族構成別】

家族構成別にみると、「よく知っている」の割合は、夫婦と親、3世代、夫婦のみで他と比べて高い。「よく知っている」と「少しは知っている」を合わせた割合でみると、3世代、夫婦と子、夫婦のみで80%を超え、他と比べて高い。

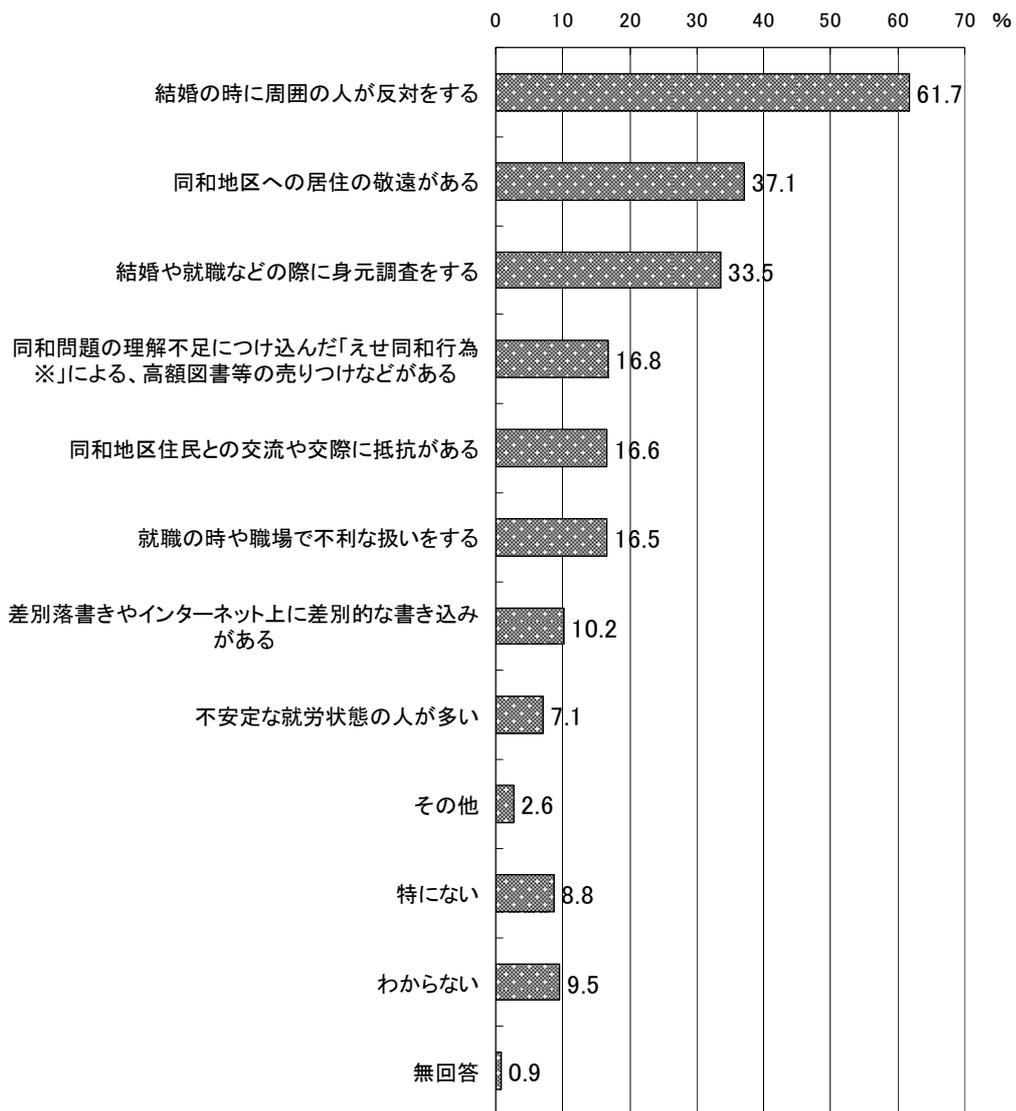
図 16 - 5 同和問題、部落問題などの認知度



### 問 17. 同和問題に関して現在の問題点

問 16 で同和問題に関して「よく知っている」「少しは知っている」「聞いたことがある」と答えた方の、現在の問題点は、「結婚の時に周囲の人が反対をする」が 61.7%で最も多く、次いで「同和地区への居住の敬遠がある」が 37.1%、「結婚や就職などの際に身元調査をする」が 33.5%などとなっている。

図 17 - 1 同和問題に関して現在の問題点 (N=857、複数回答 3)



※「えせ同和行為」とは、同和関係者を語り、同和問題を利用して会社や個人・官公署などにゆすり・たかりなどをする行為。

#### 【性別】

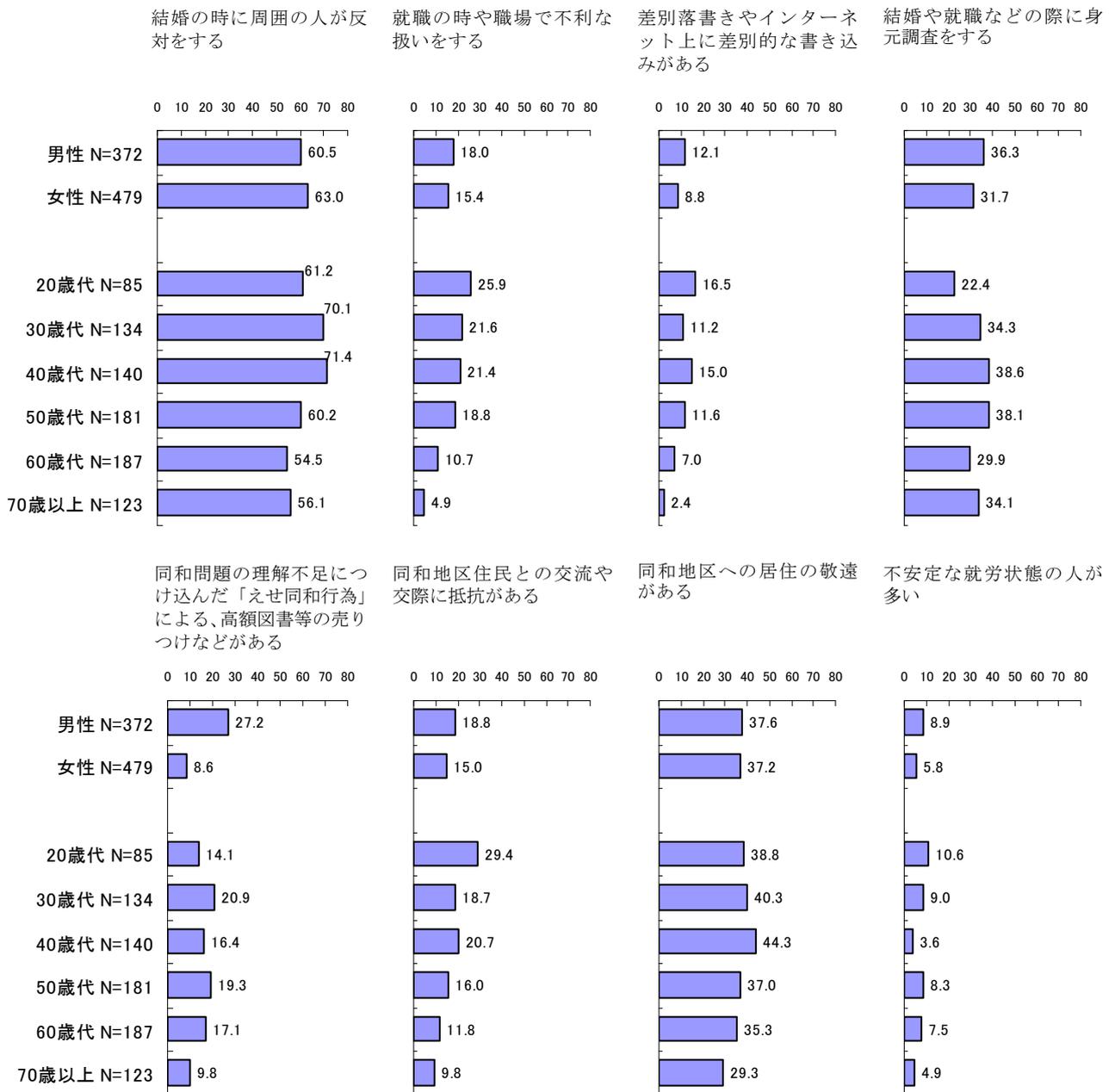
性別にみると、「同和問題の理解不足につけ込んだ「えせ同和行為」による、高額図書等の売りつけなどがある」の割合は、男性の方が 19 ポイント高い。

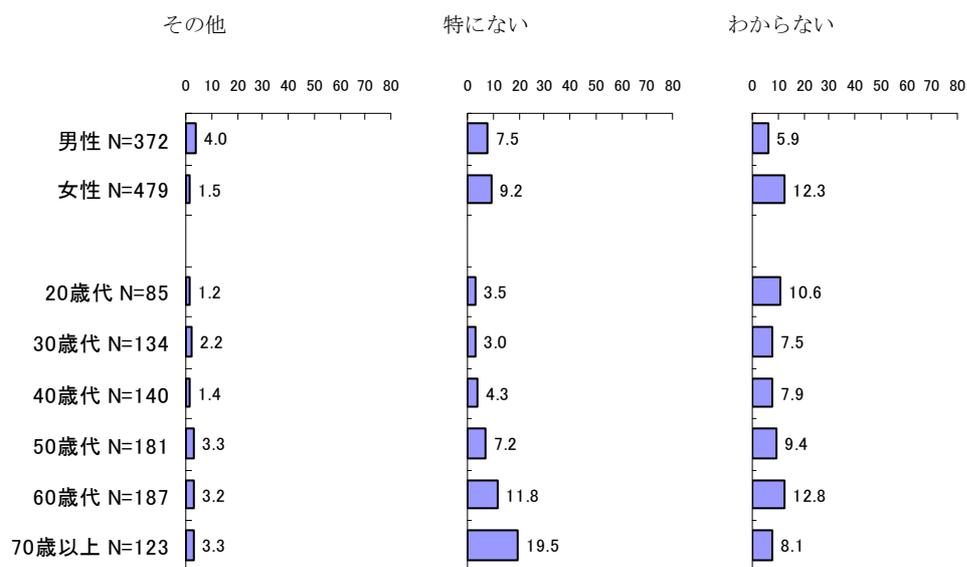
【年代別】

年代別にみると、「結婚の時に周囲の人が反対をする」の割合は、特に30歳代～40歳代では70%を超えて高い。「同和地区への居住の敬遠がある」の割合は、30歳代、40歳代で40%を超え他と比べてやや高い。「結婚や就職などの際に身元調査をする」の割合は40歳代、50歳代で他と比べてやや高い。「就職の時や職場で不利な扱いをする」及び「同和地区住民との交流や交際に抵抗がある」については、年代が高くなるほど問題意識は低くなる。

図 17 - 2 同和問題に関して現在の問題点

単位：%





【職業別】

職業別にみると、「結婚の時に周囲の人が反対をする」の割合は、公務員、主婦・家事手伝い、会社員・団体職員で65%を超え、他と比べて高い。「同和地区への居住の敬遠がある」の割合は、パート・アルバイトや主婦・家事手伝いで他と比べて高い。「結婚や就職などの際に身元調査をする」の割合は、パート・アルバイトが39.4%で他と比べて高い。

図 17 - 3 同和問題に関して現在の問題点

単位：%

	N	結婚の時に周囲の人が反対をする	就職の時に職場で不利な扱いをする	差別落書きやインターネット上に差別的な書き込みがある	結婚や就職などの際に身元調査をする	同和問題の理解不足につけ込んだ「えせ同和行為」による、高額図書等の売りつけなどがある	同和地区住民との交流や交際に抵抗がある	同和地区への居住の敬遠がある	不安定な就労状態の人が多	その他	特にない	わからない	無回答
総数	857	61.7	16.5	10.2	33.5	16.8	16.6	37.1	7.1	2.6	8.8	9.5	0.9
農林水産業	35	54.3	2.9	20.0	14.3	11.4	17.1	28.6	5.7	-	11.4	8.6	2.9
自営業	83	60.2	13.3	8.4	34.9	24.1	6.0	31.3	6.0	2.4	12.0	9.6	-
公務員	49	71.4	18.4	30.6	26.5	28.6	20.4	32.7	10.2	4.1	8.2	8.2	-
会社員・団体職員	229	65.1	22.3	11.8	35.8	18.8	24.5	39.7	7.0	3.1	3.5	9.2	0.4
学生	20	55.0	35.0	25.0	40.0	20.0	30.0	25.0	15.0	-	5.0	10.0	-
パート・アルバイト	71	62.0	23.9	12.7	39.4	11.3	18.3	49.3	5.6	1.4	11.3	8.5	-
主婦・家事手伝い	144	67.4	13.2	6.3	32.6	9.0	14.6	43.1	6.9	2.1	9.7	10.4	0.7
無職	128	56.3	11.7	4.7	35.2	21.1	10.2	35.2	6.3	3.9	11.7	7.0	1.6
その他	62	50.0	14.5	3.2	35.5	11.3	9.7	27.4	9.7	3.2	8.1	16.1	-

【家族構成別】

家族構成別でみると、「結婚の時に周囲の人が反対をする」の割合は単身、夫婦と子、3世代で60%を超え他と比べて高い。「同和地区への居住の敬遠がある」の割合は、単身、夫婦のみ、夫婦と子で他と比べて高い。夫婦と親では「同和問題の理解不足につけ込んだ「えせ同和行為」による、高額図書等の売りつけなどがある」の割合が他と比べて高い。

図 17 - 4 同和問題に関して現在の問題点

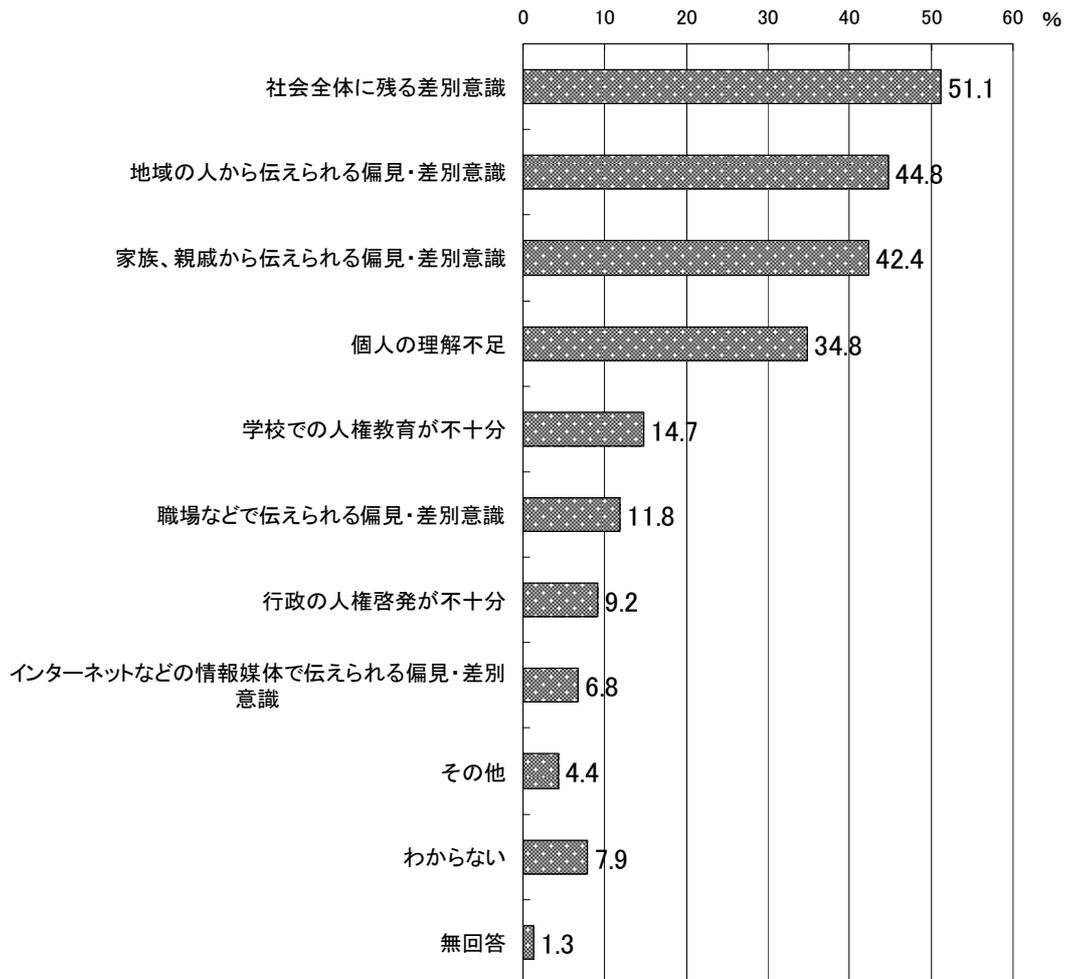
単位：%

	N	結婚の時に周囲の人が反対をする	就職の時に職場で不利な扱いをする	差別落書きやインターネット上に差別的な書き込みがある	結婚や就職などの際に身元調査をする	同和問題の理解不足につけ込んだ「えせ同和行為」による、高額図書等の売りつけなどがある	同和地区住民との交流や交際に抵抗がある	同和地区への居住の敬遠がある	不安定な就労状態の人が多	その他	特にな	わからない	無回答
総数	857	61.7	16.5	10.2	33.5	16.8	16.6	37.1	7.1	2.6	8.8	9.5	0.9
単身	61	67.2	13.1	6.6	36.1	11.5	11.5	41.0	14.8	3.3	4.9	6.6	-
夫婦のみ	165	57.0	9.1	4.2	33.3	13.9	18.2	40.0	6.7	3.6	13.3	8.5	1.2
夫婦と子	358	65.6	19.6	12.0	37.4	18.2	18.2	40.5	5.9	1.7	5.6	9.5	1.1
夫婦と親	35	57.1	20.0	5.7	20.0	31.4	17.1	22.9	14.3	5.7	11.4	11.4	-
3世代	129	62.8	16.3	14.0	30.2	17.1	12.4	32.6	4.7	2.3	8.5	13.2	-
一人親と子	59	54.2	11.9	13.6	32.2	16.9	18.6	35.6	8.5	3.4	6.8	8.5	1.7
その他	45	53.3	28.9	11.1	24.4	8.9	15.6	24.4	8.9	2.2	17.8	6.7	2.2

## 問 18. 同和問題がなお存在する原因や背景

問 16 で同和問題に関して「よく知っている」「少しは知っている」「聞いたことがある」と答えた方の、同和問題がなお存在する原因や背景は、「社会全体に残る差別意識」が 51.1%で最も多く、次いで「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が 44.8%、「家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識」が 42.4%などとなっている。

図 18 - 1 同和問題がなお存在する原因や背景 (N=857)



### 【性別】

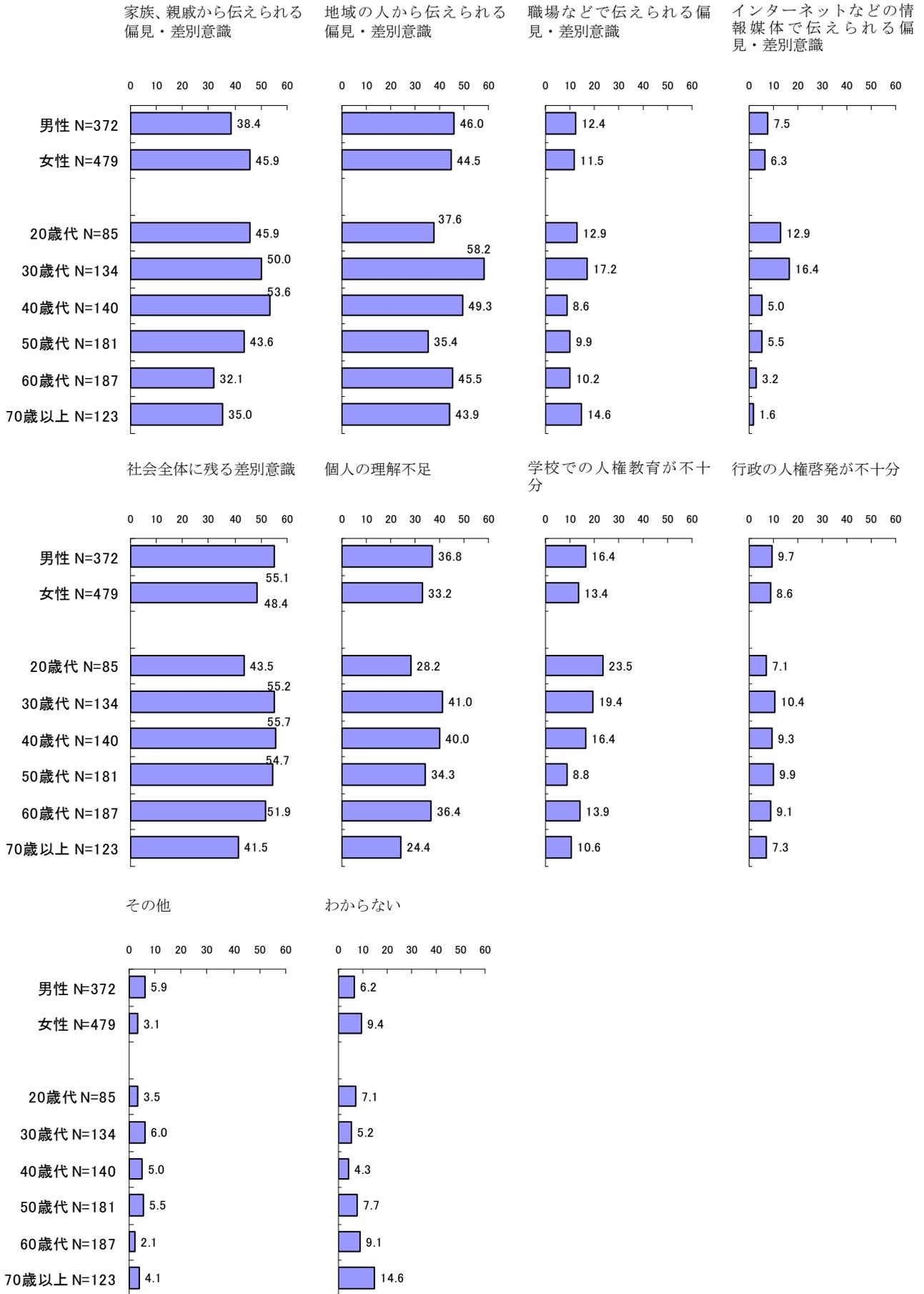
性別にみると、大差はないが、「家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識」は女性の方が 7 ポイント高く、「社会全体に残る差別意識」は男性の方が 7 ポイント高い。

### 【年代別】

年代別にみると、「社会全体に残る差別意識」の割合は 30 歳代～60 歳代で 50%を超え、他と比べて高い。「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」の割合は 30 歳代が 58.2%で最も高い。「家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識」の割合は 30 歳代、40 歳代で 50%を超え、他と比べて高い。20 歳代や 30 歳代の若年世代では「インターネットなどの情報媒体で伝えられる偏見・差別意識」、「学校での人権教育が不十分」の割合が他と比べて高い。

図 18 - 2 同和問題がなお存在する原因や背景

単位：%



【職業別】

職業別にみると、「社会全体に残る差別意識」の割合は、パート・アルバイトが 60.6%で他と比べて高い。「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」の割合は、パート・アルバイト、農林水産業で 50%を超え、他と比べて高い。「家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識」の割合は、公務員、主婦・家事手伝いで 50%を超え、他と比べて高い。

図 18 - 3 同和問題がなお存在する原因や背景

単位：%

	N	家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識	地域の人から伝えられる偏見・差別意識	職場などで伝えられる偏見・差別意識	インターネットなどの情報媒体で伝えられる偏見・差別意識	社会全体に残る差別意識	個人の理解不足	学校での人権教育が不十分	行政の人権啓発が不十分	その他	わからない	無回答
総数	857	42.4	44.8	11.8	6.8	51.1	34.8	14.7	9.2	4.4	7.9	1.3
農林水産業	35	40.0	51.4	14.3	5.7	45.7	45.7	11.4	8.6	-	2.9	-
自営業	83	39.8	36.1	9.6	6.0	51.8	42.2	15.7	7.2	2.4	8.4	1.2
公務員	49	55.1	42.9	16.3	10.2	49.0	49.0	8.2	14.3	4.1	-	-
会社員・団体職員	229	44.1	46.7	11.8	9.6	52.0	35.4	16.6	8.3	5.7	7.9	1.3
学生	20	35.0	30.0	5.0	20.0	45.0	20.0	25.0	10.0	5.0	-	-
パート・アルバイト	71	46.5	52.1	8.5	8.5	60.6	28.2	14.1	11.3	2.8	9.9	-
主婦・家事手伝い	144	52.8	48.6	16.7	4.9	48.6	36.8	16.0	9.0	4.9	6.3	0.7
無職	128	33.6	45.3	10.2	3.1	55.5	27.3	12.5	10.9	3.9	10.2	2.3
その他	62	32.3	43.5	9.7	4.8	50.0	33.9	11.3	3.2	6.5	11.3	1.6

【家族構成別】

家族構成別にみると、「社会全体に残る差別意識」の割合は、夫婦と子の世帯で 57.5%で他と比べて高い。「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」の割合は、夫婦のみ、夫婦と子、夫婦と親の世帯で 45%を超え、他と比べて高い。「家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識」の割合は、3世代、夫婦と子で 45%を超え、他と比べて高い。

図 18 - 4 同和問題がなお存在する原因や背景

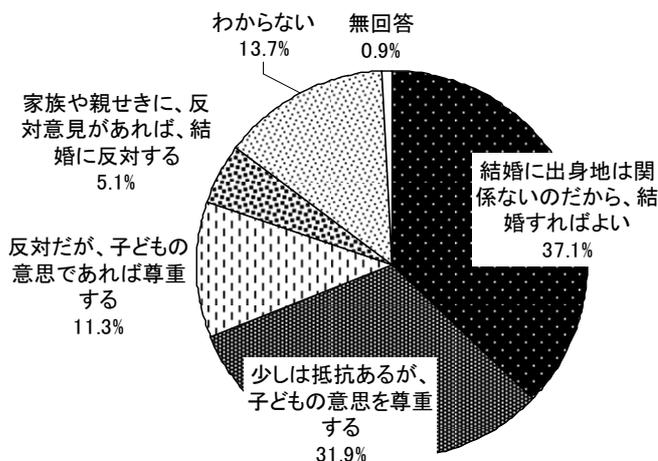
単位：%

	N	家族、親戚から伝えられる偏見・差別意識	地域の人から伝えられる偏見・差別意識	職場などで伝えられる偏見・差別意識	インターネットなどの情報媒体で伝えられる偏見・差別意識	社会全体に残る差別意識	個人の理解不足	学校での人権教育が不十分	行政の人権啓発が不十分	その他	わからない	無回答
総数	857	42.4	44.8	11.8	6.8	51.1	34.8	14.7	9.2	4.4	7.9	1.3
単身	61	37.7	34.4	13.1	3.3	41.0	32.8	18.0	11.5	8.2	8.2	1.6
夫婦のみ	165	35.2	49.1	12.7	4.2	48.5	33.3	12.7	10.9	1.8	11.5	0.6
夫婦と子	358	45.3	47.8	11.5	8.4	57.5	34.1	17.0	9.5	3.4	6.1	0.6
夫婦と親	35	42.9	45.7	11.4	2.9	48.6	40.0	8.6	5.7	8.6	-	5.7
3世代	129	48.8	38.0	10.9	7.0	42.6	36.4	11.6	7.0	5.4	7.8	1.6
一人親と子	59	44.1	40.7	10.2	6.8	45.8	32.2	10.2	6.8	11.9	6.8	5.1
その他	45	35.6	48.9	15.6	11.1	60.0	42.2	17.8	6.7	-	17.8	-

問 19. 子どもの結婚相手が同和地区の出身であるとわかったときどうするか

問 16 で同和問題に関して「よく知っている」「少しは知っている」「聞いたことがある」と答えた方の、子どもの結婚相手が同和地区の出身であるとわかったときどうするかについては、「結婚に出身地は関係ないのだから、結婚すればよい」が 37.1%で最も多く、次いで「少しは抵抗あるが、子どもの意思を尊重する」が 31.9%、「わからない」が 13.7%などとなっている。

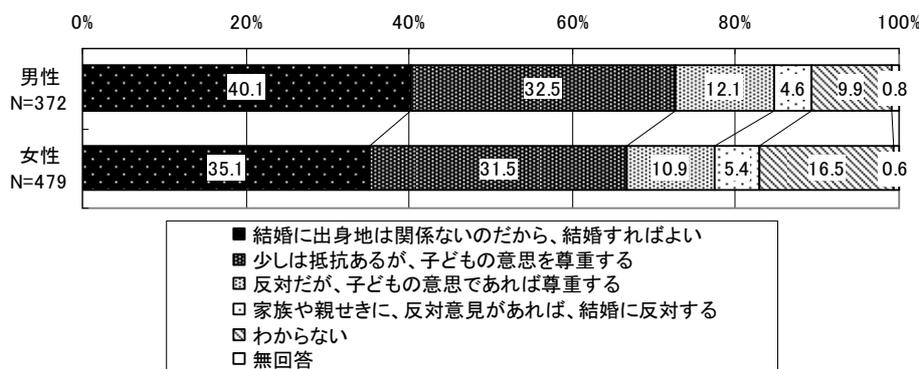
図 19 - 1 子どもの結婚相手が同和地区の出身であるとわかったときどうするか (N=857)



【性別】

性別にみると、男性の方が「結婚に出身地は関係ないのだから、結婚すればよい」の割合が5ポイント高い。

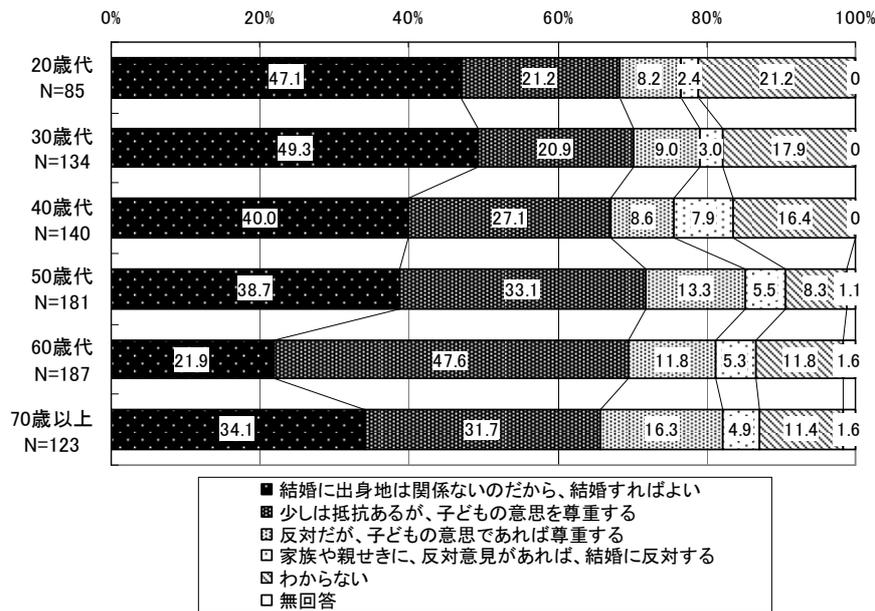
図 19 - 2 子どもの結婚相手が同和地区の出身であるとわかったときどうするか



【年代別】

年代別にみると、年代が高くなるほど、「結婚に出身地は関係ないのだから、結婚すればよい」の割合が低くなり、「少しは抵抗あるが、子どもの意思を尊重する」の割合が高くなる。この2つを合わせた、結婚に反対ではない人の割合は年代によって大差はない。

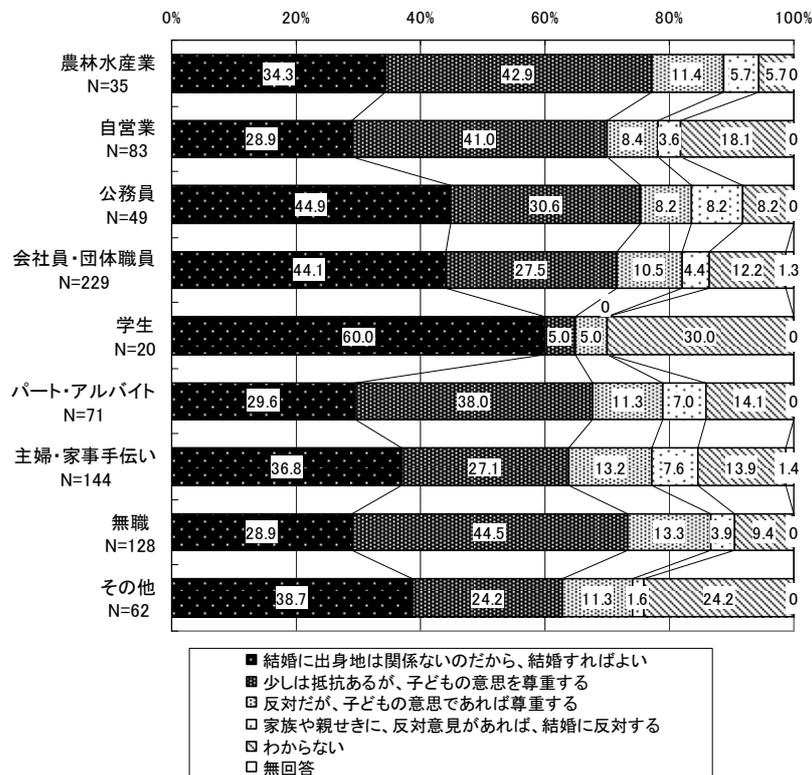
図 19 - 3 子どもの結婚相手が同和地区の出身であるときどうするか



【職業別】

職業別にみると、「結婚に出身地は関係ないのだから、結婚すればよい」の割合は、学生が最も高く 60.0%、次いで公務員、会社員・団体職員で 40% を超え、他と比べて高い。「少しは抵抗あるが、子どもの意思を尊重する」の割合は、無職、農林水産業、自営業で 40% を超え、他と比べて高い。

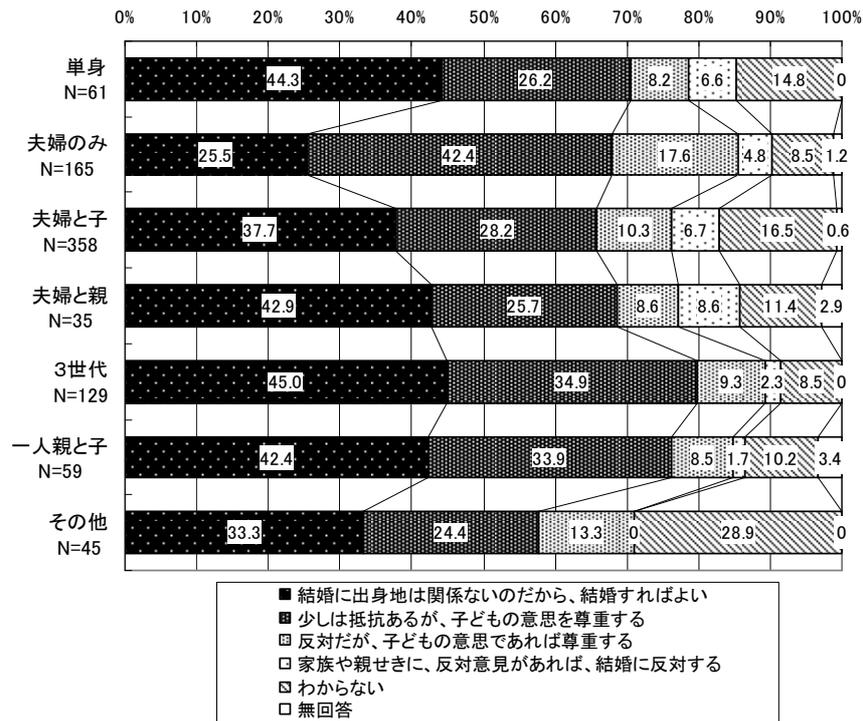
図 19 - 4 子どもの結婚相手が同和地区の出身であるときどうするか



【家族構成別】

家族構成別にみると、「結婚に出身地は関係ないのだから、結婚すればよい」の割合は、3世代、単身、夫婦と親、一人親と子の世帯で40%を超え、他の世代よりも高く、「少しは抵抗があるが、子どもの意思を尊重する」の割合は夫婦のみ世帯で特に高い。この2つを合わせた、結婚に反対ではない人の割合は、3世代、一人親と子で他と比べて高い。

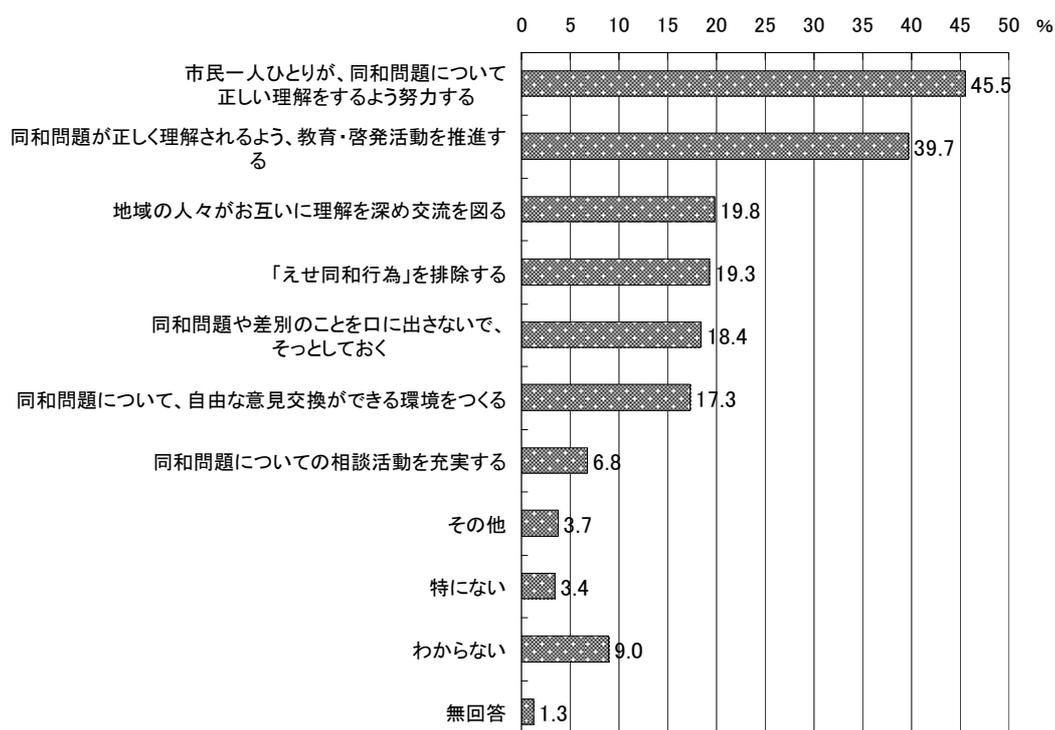
図 19 - 5 子どもの結婚相手が同和地区の出身であるときどうするか



## 問 20. 同和問題を解決するために特に必要なこと

問 16 で同和問題に関して「よく知っている」「少しは知っている」「聞いたことがある」と答えた方の、同和問題を解決するために特に必要なことは、「市民一人ひとりが、同和問題について正しい理解をするよう努力する」が 45.5%で最も多く、次いで「同和問題が正しく理解されるよう、教育・啓発活動を推進する」が 39.7%、「地域の人々がお互いに理解を深め交流を図る」が 19.8%などとなっている。

図 20-1 同和問題を解決するために特に必要なこと (N=857、複数回答)



### 【性別】

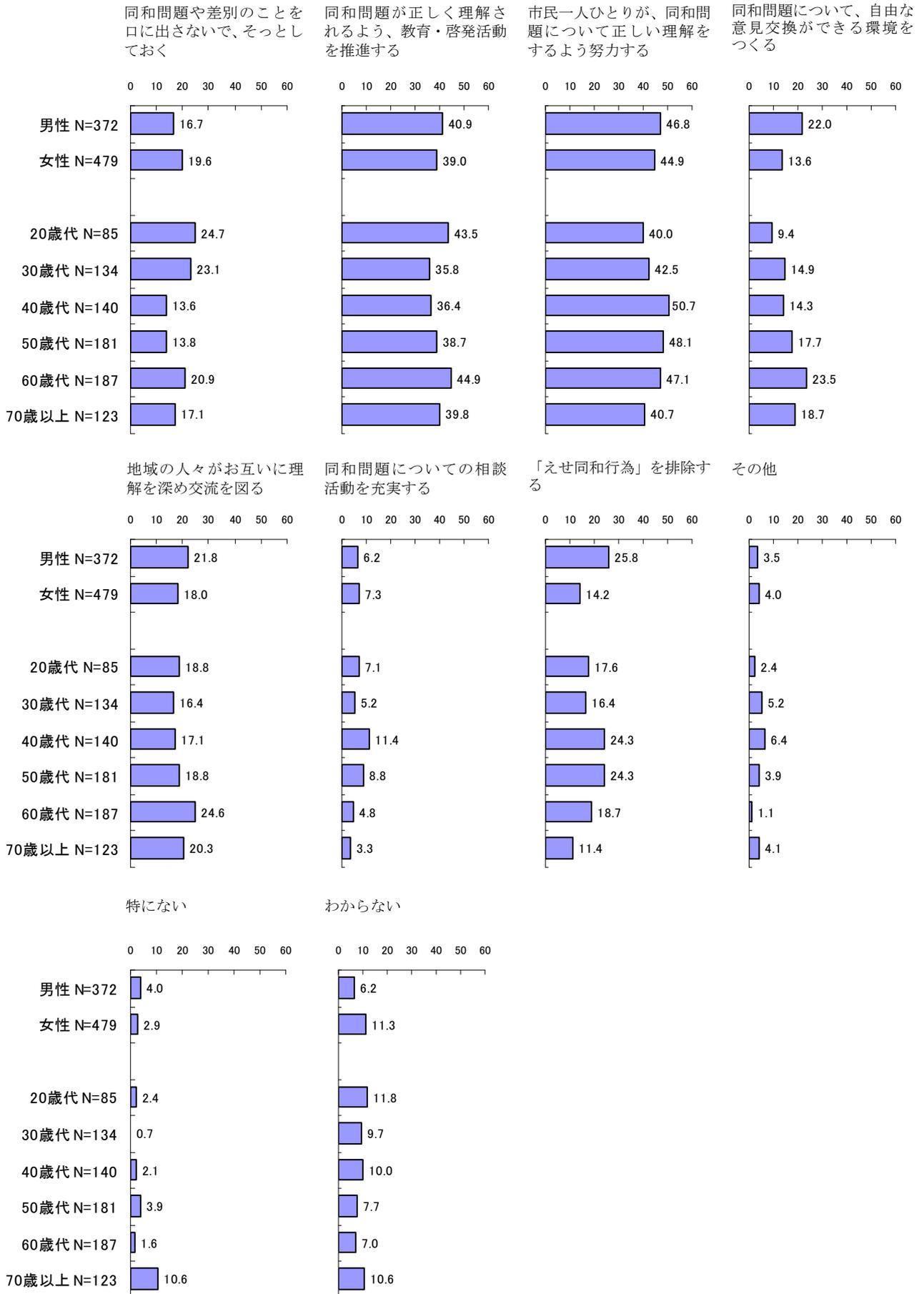
性別にみると、男性では「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」の割合が女性よりも 8 ポイント高く、また『『えせ同和行為』を排除する』の割合が女性よりも 11 ポイント高い。

### 【年代別】

年代別にみると、「市民一人ひとりが、同和問題について正しい理解をするよう努力する」の割合は、40 歳代～60 歳代が 50%程度で他と比べて高く、「同和問題が正しく理解されるよう、教育・啓発活動を推進する」の割合は、20 歳代、60 歳代で 40%を超え、他と比べて高い。年代が高くなるほど「同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」の割合が高くなる。20 歳代や 30 歳代では、「同和問題や差別のことを口に出さなくて、そっとしておく」の割合が 24%程度で他と比べて高い。40 歳代、50 歳代では『『えせ同和行為』を排除する』割合が 24.3%でやや高い。

図 20-2 同和問題を解決するために特に必要なこと

単位：%



【職業別】

職業別にみると、「市民一人ひとりが、同和問題について正しい理解をするよう努力する」の割合は、農林水産業が 71.4%、公務員が 55.1%で他と比べて高い。「同和問題が正しく理解されるよう、教育・啓発活動を推進する」の割合は、農林水産業が 51.4%、パート・アルバイトが 46.5%で他と比べて高い。

図 20-3 同和問題を解決するために特に必要なこと

単位：%

	N	同和問題や差別のことを口に出さないうで、そっとしておく	同和問題が正しく理解されるよう、教育・啓発活動を推進する	市民一人ひとりが、同和問題について正しい理解をするよう努力する	同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	地域の人々がお互いに理解を深め交流を図る	同和問題についての相談活動を充実する	「えせ同和行為」を排除する	その他	特になし	わからない	無回答
総数	857	18.4	39.7	45.5	17.3	19.8	6.8	19.3	3.7	3.4	9.0	1.3
農林水産業	35	11.4	51.4	71.4	31.4	20.0	8.6	17.1	-	-	-	2.9
自営業	83	13.3	42.2	41.0	15.7	19.3	1.2	24.1	2.4	3.6	13.3	1.2
公務員	49	20.4	36.7	55.1	22.4	20.4	10.2	38.8	2.0	4.1	2.0	-
会社員・団体職員	229	17.5	36.7	41.5	17.0	17.5	9.6	19.2	4.4	3.9	9.2	1.3
学生	20	25.0	45.0	50.0	20.0	30.0	10.0	20.0	5.0	-	10.0	5.0
パート・アルバイト	71	11.3	46.5	50.7	15.5	23.9	7.0	12.7	5.6	1.4	15.5	1.4
主婦・家事手伝い	144	24.3	41.7	45.8	9.0	18.1	4.9	16.7	1.4	2.1	7.6	-
無職	128	16.4	42.2	45.3	24.2	21.1	6.3	21.9	5.5	6.3	4.7	1.6
その他	62	17.7	35.5	45.2	17.7	19.4	6.5	12.9	6.5	3.2	12.9	-

【家族構成別】

家族構成別にみると、「市民一人ひとりが、同和問題について正しい理解をするよう努力する」の割合は、一人親と子、3世代の世帯で 50%を超え、他と比べて高い。「同和問題が正しく理解されるよう、教育・啓発活動を推進する」の割合は、夫婦と子の世帯で 40%を超え、他と比べて高い。

図 20-4 同和問題を解決するために特に必要なこと

単位：%

	N	同和問題や差別のことを口に出さないうで、そっとしておく	同和問題が正しく理解されるよう、教育・啓発活動を推進する	市民一人ひとりが、同和問題について正しい理解をするよう努力する	同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	地域の人々がお互いに理解を深め交流を図る	同和問題についての相談活動を充実する	「えせ同和行為」を排除する	その他	特になし	わからない	無回答
総数	857	18.4	39.7	45.5	17.3	19.8	6.8	19.3	3.7	3.4	9.0	1.3
単身	61	23.0	37.7	45.9	13.1	23.0	3.3	19.7	3.3	4.9	13.1	-
夫婦のみ	165	19.4	38.8	40.0	23.6	23.6	5.5	18.2	2.4	4.2	9.7	2.4
夫婦と子	358	16.2	41.9	47.2	15.4	16.8	7.5	19.6	3.6	2.0	8.1	0.8
夫婦と親	35	20.0	34.3	25.7	20.0	22.9	8.6	25.7	2.9	-	17.1	5.7
3世代	129	23.3	39.5	51.2	15.5	15.5	7.0	21.7	4.7	6.2	7.0	-
一人親と子	59	16.9	32.2	52.5	15.3	22.0	6.8	18.6	5.1	3.4	5.1	3.4
その他	45	11.1	44.4	44.4	20.0	28.9	8.9	8.9	6.7	4.4	13.3	-